

## 第1回よりさらにテーマを絞って意見交換

平成28年2月に第2回認知症について考える会を開催しました。

第1回目「認知症になっても安心して暮らせるまち豊橋とは？」のグループワークにて出た意見から1つテーマを絞り、さらに具体的なテーマにて意見交換を行いました。

〈テーマ〉

「道に迷っても安心して帰ることができる/行きたい所にいけるには？」

各グループ意見交換が盛り上がり、個人の取組としてすぐに実践できそうなこと、新たなハード面の整備の提案、今まで思いつきもしなかった斬新なアイデアなど、様々な視点からの意見が出ました。

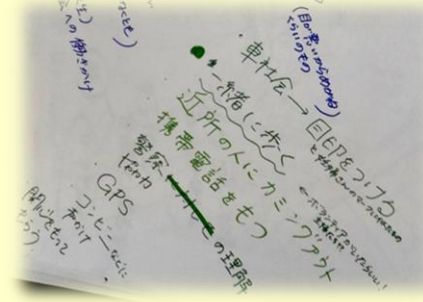
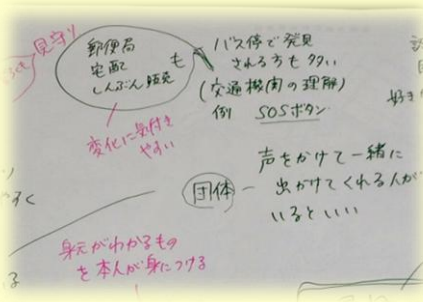
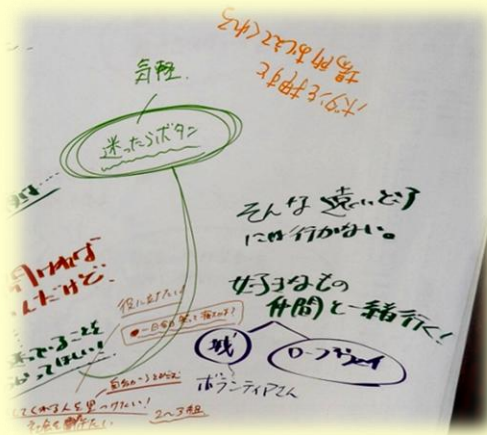
意見によっては「認知症」に限定せず、子どもや地域に暮らす皆にとってもやさしいものになるのでは？というものも沢山あるね。ということに参加者の皆さんで確認しました。

(グループワークで出た詳細の意見については別紙参照)

### 内容

- 1 第1回目振り返り
- 2 グループワーク  
「道に迷っても安心して帰ることができる/行きたい所にいけるには？」

参加者 22名  
場所 あいトピア



## 参加希望者はご連絡ください

平成28年2月26日(金)中日新聞へ認知症について考える会の様子が掲載されました。

認知症になっても安心して暮らせるまちづくりに関心のある方は下記へご連絡ください。開催する際にはお知らせさせていただきます。



豊橋市役所長寿介護課  
地域予防啓発グループ  
電話：51-2338



活発に意見を交わす参加者 | 豊橋市前畑町

# 認知症多様な視点で議論

豊橋市主催の「認知症について考える会」が二十五日、同市前畑町の市総合福祉センター(あいトピア)であった。認知症の人の家族や福祉事業所の職員らさまざまな立場の三千人が、認知症の人が暮らしやすい理想の街のあり方を議論した。

(相沢紀衣)

と周りに伝えることは全く恥ずかしくない。近所の人々が歩いていった方向を教えてくれた助かる」と地域コミュニティの大切さを語った。

参加者は活発に意見を交わし、認知症の悪いイメージをなくすため社会福祉士やケアマネジャーなどプロが積極的に発信していくことが大切だ、といった声が上がった。

認知症の人を受け入れている市内の通所デイサービス施設「小さな家」の運営統括責任者三浦千歳さん(同)は「こんなに他業種が集まることは珍しい。連携のきっかけにした」と話した。

「考える会」は今後も継続予定。豊市長寿介護課(05332)123338

## 豊橋で勉強会 家族や福祉関係者ら

一月に初開催し、二回目。「道に迷っても安心して帰ることができるには? 行きたい所に行けるには?」をテーマに、六人一組に分かれてグループで意見を出し合った。

同市山田一番町の野村弘子さん(同)は、五年前に夫の一人暮らし(も)の認知症が発覚してすぐに、近隣住民に打ち明けた。本人の「外に出たい」という意思を尊重しているが、どうやって帰ってきたのか、分からない場合も多い。「認知症